

第2章 民主政治・憲法・人権

第5講 権力を制限して人権を守る

1 多数決ならなんでも決められるか

・公共の課題を解決するには、ルールを決めて実行する力が必要になる。しかし、その力が一人や一つの組織に集中すると、反対意見を抑え、人々の権利を侵すおそれがある。

・憲法によって国家権力を制限し、人権を保障する考え方を[1]_____という。憲法という名前の文書があるだけでは十分ではなく、権力を実際に制限する内容と仕組みが必要である。

・権力者の恣意的な判断ではなく、人権保障などの実質を備えた法によって政治を行い、権力者も法に従うという原理が[2]_____である。単に法律を統治の道具にすることではない。

【考えてみよう】

とある国で、議会の多数派が「政府への批判を一切禁じる法律」を成立させた。「多数決で決めたから正当だ」という説明には、どのような問題があるか。

2 国家ができる前からある権利

・人が生まれながらにもつと考えられた権利を[3]_____という。国王からの恩恵として与えられる権利、という理解とは異なる。

・人々の合意・契約によって国家の成立や統治の正当性を説明するのが[4]_____説である。実際に全員が契約書に署名したという歴史の説明ではない。

3 社会契約説の比較

- ・[5]_____は、自然状態[国家が成立する以前の状態]を人々が争い合う不安定な状態として捉え、生命の安全と平和のために強い主権者を必要とした。著書は『リヴァイアサン』。
- ・[6]_____は、生命・自由・財産などの自然権を守るために政府をつくると考えた。政府が委ねられた権力を乱用する場合には、人民の[7]_____を認めた。著書は『統治二論』。
- ・[8]_____は、共同体全体の利益を目指す[9]_____に従う人民主権を説いた。個々人の私的利益を寄せ集めた全体意志と区別する。著書は『社会契約論』

一言で説明：多数決と一般意志を、そのまま同じ意味にできないのはなぜ？

人物	統治を考える出発点	取り違えに注意
ホッブズ	生命の安全と秩序の確保	ロックと同じ抵抗権論ではない
ロック	自然権を保護するための信託	政府が権利を自由に与えるのではない
ルソー	人民が一般意志に従って自ら治める	単なる多数の私益の合計ではない

4 自由を制度で守る

- ・[10]_____は『法の精神』で、権力を分けて相互に抑制させる[11]_____を説いた。三権分立では立法・行政・司法を分ける。互いに一切関係をもたない、という意味ではない。
- ・国民主権は「政治の最終的な決定権は誰にあるか」、立憲主義は「権力をどう制限するか」、権力分立は「制限をどのような機構で支えるか」という問いに対応する。

5 自由の保障から生活の保障へ

年	文書	学習する意味
1215	マグナ・カルタ	イギリスで王権を制限する出発点。全住民の平等を完成させた文書ではない
1628	権利の請願	議会の同意によらない課税や不当な拘禁などに反対
1689	[12]_____	イギリスで王権を制限し、議会の権限を確認
1776	アメリカ独立宣言	自然権と、被治者の同意に基づく統治を主張
1789	[13]_____	自由・平等、国民主権、人権保障と権力分立
1919	[14]_____	自由権に加え、生活・労働など社会権の保障を明文化

・自由に契約できても、経済力の差が大きければ、弱い立場の人が不利な条件を受け入れざるを得ない。そこで、人間らしい生活の条件を国家の積極的な働きによって保障する[15]_____が重視されるようになった。

・[15]の登場によって自由権が不要になったわけではない。また、宣言で平等を掲げたことと、女性や奴隷とされた人々を含むすべての人に権利が実現したことは区別する。

<確認問題 1>

E1 立憲主義と民主政治の関係について、最も適切な説明はどれか。【 】

1. 多数決で成立した法律は、内容にかかわらず人権を制限できる。
2. 多数派が担う権力も憲法による制限を受ける。
3. 立憲主義は、国民が政治に参加することを禁じる。
4. 憲法という名称の文書があれば、人権保障の内容は問われない。

E2 社会契約説について述べた文として、誤っているものはどれか。【 】

1. ホブズは、人々が争いを避けるために、強力な国家権力を必要とすると考えた。
2. ロックは、政府が人民の権利を侵害した場合、人民には政府に抵抗する権利があると考えた。
3. ルソーは、人民自身が主権者であり、主権は人民から政府へ完全に譲渡されると考えた。
4. ルソーは、一般意志に基づいて人民自身が政治を行うことを重視した。